

月刊

GPP



Vol.73

令和3年12月号

株式会社
グロースパートナーズ

2021年の終わりに

あっという間の2021年が、あと20日強で終わろうとしている。横浜港の客船でコロナクラスターが発生したのは1年前、つまり今年の1月と錯覚しているのは私だけではないはずだ。同じような状態が続いているので、メリハリがないからであろうか・・・

今年は残コン・戻りコン対策品として、セルドロンが浮上するきっかけとなった1年となった。RRCSが目覚ましい躍進の賜物だが、脱炭素社会に向かう中で今まで日の目を見ることがなかった残コン・戻りコンは、重要な資源として見直されることであろう。一方、廃棄物が資源となることで、その所有権の明確化とそれに伴う法的整備は不可欠となってくるであろう。あるべき姿になるのは望ましいことである。

実はこの原稿を書いている今日、建築家・隈研吾先生と野口先生のRRCS新春対談の収録であった。タイトルは「2050年、2100年の建築はどうなっているか?」。隈研吾先生よりは「都市部の約半分の面積を占める道路の多くは、草花とコンクリートが融合しながら人々の場所として戻って来るのではないか?」と、実に示唆に富んだコメントが飛び出した。勿論、下準備無しである。隈研吾先生と言えば、象徴的に木材を使用されるケースが多いが、「木も、石も、FRPも、素材から私に近づいてくるのだ」と、これまた“さすが隈研吾”的なコメントを頂戴した。同時にコンクリートがCO₂を吸収するという新たな役目を担ったことにより、コンクリートを主演にした新たなプロジェクトが始まる予感も漂わせる対談となった。

今年の新年企画が日本生命・松永専務で、来年が隈研吾先生。再来年は誰にしようかと、もう考え始めている。この企画は、年々ハードルが上がっていくのは間違いない。何でもそうだが、ハードルは高く設定するべきだ。そのうち、「そもそもハードルなんて高いに決まっている」と自分の脳みそを騙すことが大事だ、とこの忙しい年末に思ったりしている。

皆様、良いお年をお迎えください。2022年は必ずや飛躍の年となることでしょう!

藤井 成厚

大手ゼネコン現場で採用 増加中

11月は、コロナ陽性者が減少したおかげか初めましての現場訪問が可能でした。現場の費用から考えると、ごくごくわずか(数万円)で、且つ、躯体には関係ないセルドローンの提案は後回しになってしまうことが多です。

その一方で、今まで以上に環境問題に注力するゼネコンが増えてきたように感じます。本社一部負担で、現場に電動バックホーを導入したり、残コンを現場から0(ゼロ)にする指令が出ていたり、環境に対する予算を本社側が負担したり。。。

ぜひ、この機会にセルドローンをお試ください。

初回は、生コン1m³分の適量(20kg程度)から購入可能です。

ポンプ車の残コンや洗い水処理について

現場で生コンのポンプ打設をした際に、ポンプ車の洗い水を現場で垂れ流しているのを見たことがあるが、おそらく強アルカリ(pH12程度)で排水基準を満たしていないと思います。(基準値pH5.8以上8.6以下)

今回は、現場で洗い水を減容化させて処理する事例を一つご紹介いたします。

■処理の流れ

- ①ポンプ車の洗い水をプールにあける
- ②プールのうわ水をポンプで吸い上げてタンクへ入れる
- ③プール内の残渣物をセルドローンで処理して産廃処分
- ④タンク内に凝集剤を添加してハンドミキサーで攪拌
- ⑤pH測定し、pH8.6以下を確認してろ布を通して排水
- ⑥沈殿物はプールにあけて、③と同様に処理。

洗い水を産廃処分するよりも減容化可能です。

洗い水にお困りの現場がありましたら、ご相談ください。

①洗い水置き場



②うわ水タンク



③タンク内



セルドローンに関する疑問質問は営業 土井まで



03-4405-2642